

## 歯のインプラント どんなもの？

お医者さんに  
聞いてみよう

25



歯のインプラントという言葉をよく聞きます。関心はあるのですが、どんなものなのでしょう。メリットやデメリットを教えてください。

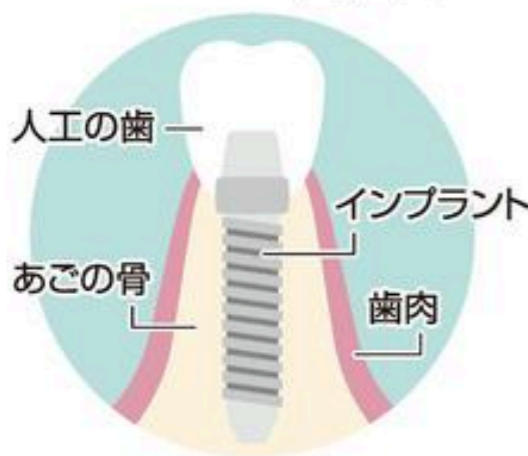
歯の喪失は虫歯や歯周病、外傷などで生じます。歯を欠損したままにしておく、かみ合わせや発語などの口腔機能の低下につながります。

治療には一般的に保険診療の範囲内で行えるものと、自由診療で行うものがあります。保険診療で行えるものとしては入れ歯(義歯)や、欠損した歯の両隣の歯を削って橋渡しするようにかぶせ物(ブリッジ)があります。

義歯の取り外しや歯にかかる金属のバネの見た目を気にされる方もおられます。またブリッジには両隣の健全な歯を削ってかぶせる

# 根っこから人工物に

## 歯科インプラント



### メリット

- 自分の歯で噛む感覚
- 見た目の改善
- 周りの歯に影響を与えない

### デメリット

- 治療費が高額
- 手術が必要で治療期間が長い
- 感染する可能性

ので、将来的に二次的な虫歯が生じるリスクがあります。

そのようなことが心配な方にお薦めする方法の一つに歯科インプラントがあります。こちらは健康保険が利かない自由診療となります。

通常、差し歯と言われるかぶせ物の治療は、患者さん自身の歯の根っこを利用して治療を行います

が、歯科インプラントは、この歯の根っこ自体を人工のものに置き換えて土台とするものです。

歯科インプラントには体になじみやすいチタンが主に用いられています。チタン製のインプラント体をあごの骨(歯槽骨)に埋め入れますが、骨との結合には2〜6カ月かかります。

骨と結合したら、歯肉を貫通する装置(アバットメント)を装着し、最終的なかぶせ物や義歯を装着することとなります。最終的なかぶせ物はジルコニアなどのセラミックスが用いられます。

手術には、歯科インプラントの埋め入れとアバットメント装着の2回の外科手術を必要とする「2回法」と、これらを同時に行う「1回法」があります。

また歯科インプラントを埋め入れるには、家の建築で土台を整える場合と同じように、あごの骨の幅や高さが十分にあることが必要です。歯がなくなると、歯の周りのあごの骨の吸収が起こります。その程度によっては、すぐに歯科インプラントを埋め入れることはできず一度、骨移植などを行い、

《 答える人 》



山田 慎一さん

富山大付属病院  
歯科口腔外科診療部門長

健康保険は利かない

骨移植が必要な場合も

メンテナンスで長持ち

必要な骨量を確保してから埋め入れなければならないことがあります。

その場合、治療期間が延びることになります。骨移植には、自分のあごの骨を用いる場合と人工骨を用いる場合があります。

歯科インプラントには、多くのメリットがありますが、費用や治療期間のほかにも、注意しなければならぬことがあります。最近では95%の歯科インプラントが10年残存したとの報告がありますが、成功率は100%ではありません。

歯科インプラントは天然歯とは構造が異なり、歯科インプラント体が直接、骨に埋まっていることにより感染に弱い面もあります。また、かぶせ物や義歯の破損などが生じた場合の修理や除去が困難な面もあります。治療後のメンテナンスを定期的に継続して受けることも、歯科インプラントを長持ちさせるためには大切です。

歯科インプラント治療は自由診療ですが、腫瘍切除後、外傷、先天性の歯の欠損に対しては保険診療で行うことが近年可能となりました。歯科インプラント治療は高額で、メリット、デメリットがあります。一番は自分の歯を末永く使うことであり、日ごろからの歯のお手入れが大事です。定期的に歯科医院を受診し、メンテナンスを受けて、歯の喪失に至らないようにすることが最も重要です。



隔週火曜に掲載。  
これまでの連載は  
こちらからご覧  
いただけます